

## 役割分担と協力を訴え さわやか共同参画の集いを開催

市さわやか共同参画の集いは10月27日、アンバーホールで開催されました。フリーアナウンサーの松田朋恵さんが「テレビ寺子屋から学ぶ男女共同参画」と題して講演。自らの経験に基づいて、「夫は、一度言われたらちゃんとやること。妻は、やってくれたらちゃんとほめること」などと、男女共同参画のススメを訴えました。また、男女共同参画を考えるもんめの会が「勇気を出して」と題して朗読劇を行い、家庭内暴力を受けている女性へ相談を呼び掛けました。



「家族で役割分担と協力を」と訴えました

▶軍配もちは大人気。数々の郷土料理をたくさんの人たちが味わいました  
▼炭で焼いたおいしいイワナにかぶりつき！



## 紅葉鮮やか風物詩 第37回水車まつりを開催

第37回水車まつり（端神部落会など主催）が11月4日、秋晴れの端神・桂の水車広場で開催されました。毎月1回のくるま市と合わせて、すっかり春と秋の風物詩となったこのお祭り。この日は鮮やかな紅葉と好天に恵まれたことも手伝ってか、たくさんの家族連れなどでごった返しました。

おなじみの豆腐田楽やイワナ、軍配もちなどが振る舞われたほか、あわもちつきの振る舞いには、あっという間に長蛇の列ができていました。会場内では、山根神楽の奉納なども行われ、訪れた人たちは、時のたつのも忘れて、ゆっくりと見物をしていました。

家族と3人で訪れた下公アヤ子さん（小久慈町）は「来たのは3年ぶり。ソバが素朴な味で、ひいばあちゃんが打ってくれたのを思い出します。これからも変わらずに続いてほしいですね」と目を細めていました。

## カメラの使い方体験 平山小で放送機材に触れ学習

平山小学校（佐藤範久校長、児童101人）の5年生21人が11月2日、NHK盛岡放送局の協力で、放送に関する学習を行いました。同学年は、インタビューの仕方や情報発信の仕方などについて学習しており、同局がもぐらんぴあに取材に訪れることから、協力を依頼。カメラやマイク、中継車に触れるなどして学習しました。佐藤瑞稀君は「中継車の中からカメラマンに指示をするのが楽しかった。カメラは、ズームレンズを動かすのが難しかった」と振り返っていました。



カメラって難しいね～

## 久慈の琥珀を発信 街中に情報掲示板を設置



琥珀親善大使が除幕を行いました

くんのこほっば愛好会（黒沼忠雄会長）では11月8日、琥珀を生かしたまちづくりを進めるため、市内に情報掲示板を設置しました。この事業は、市の地域コミュニティ振興事業の補助を受けて行われたものです。

「街の駅情報ネットワーク琥珀の窓」と名付けたこの掲示板は、中央と中町の道路沿い2カ所に設置。中央には、アンバーロードなど交流に関する情報を、中町には、久慈地域の琥珀にまつわる情報を写真付きで展示する予定です。

黒沼会長は「四季折々で情報を変え、久慈の琥珀を発信したい。市民や観光客が興味を引くような町並みづくりのきっかけになれば」と話していました。

## 心が揺れる曲でした 侍浜中で学校鑑賞会

川柳作家やすみりえさんと弦楽四重奏団が11月7日、侍浜中学校（田山英治校長、生徒108人）を訪れ、川柳や弦楽四重奏による演奏を披露しました。

全校生徒が集めた体育館では、スタジオジブリの音楽やクラシック、ポップスなどを披露。演奏を聴いて川柳を詠ませるなどの催しも行われました。川柳は「ありがとう 心が揺れる 曲でした」という率直なものや、「踊る弓 弦の上でも コンサート」など、やすみさんもうなるような川柳が披露されました。

やすみさんたちは6-7日、宇部中、久慈湊小も訪れ、演奏を披露。7日にはアンバーホールで「言・奏の夕べ」と題してコンサートを行いました。



美しい演奏で生徒たちを魅了しました

## 地元の漁業に関心 久喜小で新巻き、イクラ作り

久喜小学校（小島勝美校長、児童62人）の6年生13人が11月8日、久喜漁港でサケの新巻きとイクラ作りに挑戦しました。久喜海づくり少年団の活動の一環で、地域の漁業生産部や保護者などが参加して、指導しました。

サケの腹をさいて内臓を取り出したり、塩もみをする作業に、初めは怖がっていた児童たち。途中から慣れてきた様子で、軍手を血まみれにしながらも、せっせと作業にあたっていました。

仲村豪将君は「切ったり、塩もみしたり楽しかった。自分たちで作ったから、きっとおいしいと思う」と笑顔を広げていました。イクラは、この日の給食でさっそく食べられたほか、新巻きは、自宅に持ち帰って食べるとのこと。サケをさばいて味わった児童たちは、地元の漁業に関心を深めた様子でした。



せっせと塩もみ作業に励む児童たち